

コメ価格上昇で高まる節約志向

三重県民の節約志向が高まっている。百五総合研究所が5月下旬に県内で働く216人から回答を得た調査では、ここ最近「節約しよう、あるいは節約した方が良いという意識が高まった」人の割合は85.2%に上り、2024年11月の78.7%から大きく増加した。

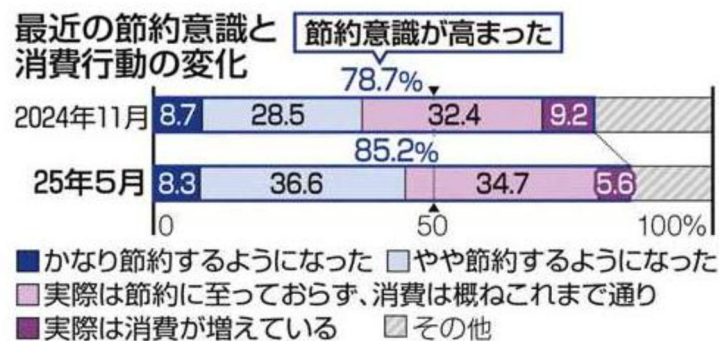
実際に節約している人も増えた。「かなり」あるいは「やや」節約するようになった人の割合は計44.9%と、24年11月の37.2%を1割近く上回った。

主因の一つはコメ価格の上昇だろう。総務省によると、食料品と電気代などエネルギーの価格を除いた消費者物価指数の前年比上昇率は、津市で23年の2.1%から24年は1.7%、この5月は1.3%と落ち着きつつある。

一方、コメを含む穀類は、24年10月以降毎月15～25%前後も上昇し、減反政策の本格開始と第一次オイルショックが重なった1970年代半ば頃と同程度の伸びだ。

必需品である「主食」の値上がりはそれ以外の節約につながっている。調査では、外食やレジャー、衣類・かばん・靴などを節約している人が多かった。消費を支えるには所得増が必要だが、企業では前年度を上回る賃上げを継続しており、仕入価格高も加わる中、一層の賃上げは容易ではない。国は、食料品やエネルギーなど、よりのを絞った負担軽減策の検討が必要だ。

(地域共創事業部 受託・調査グループ 主任研究員 谷ノ上千賀子)



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む（百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました）」

2025年6月26日